

MD100 クイック DB モードマニュアル

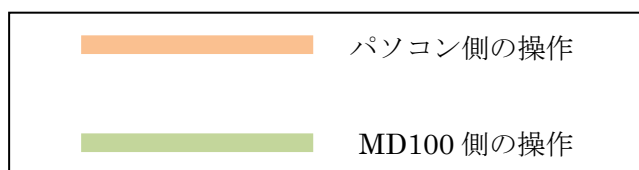
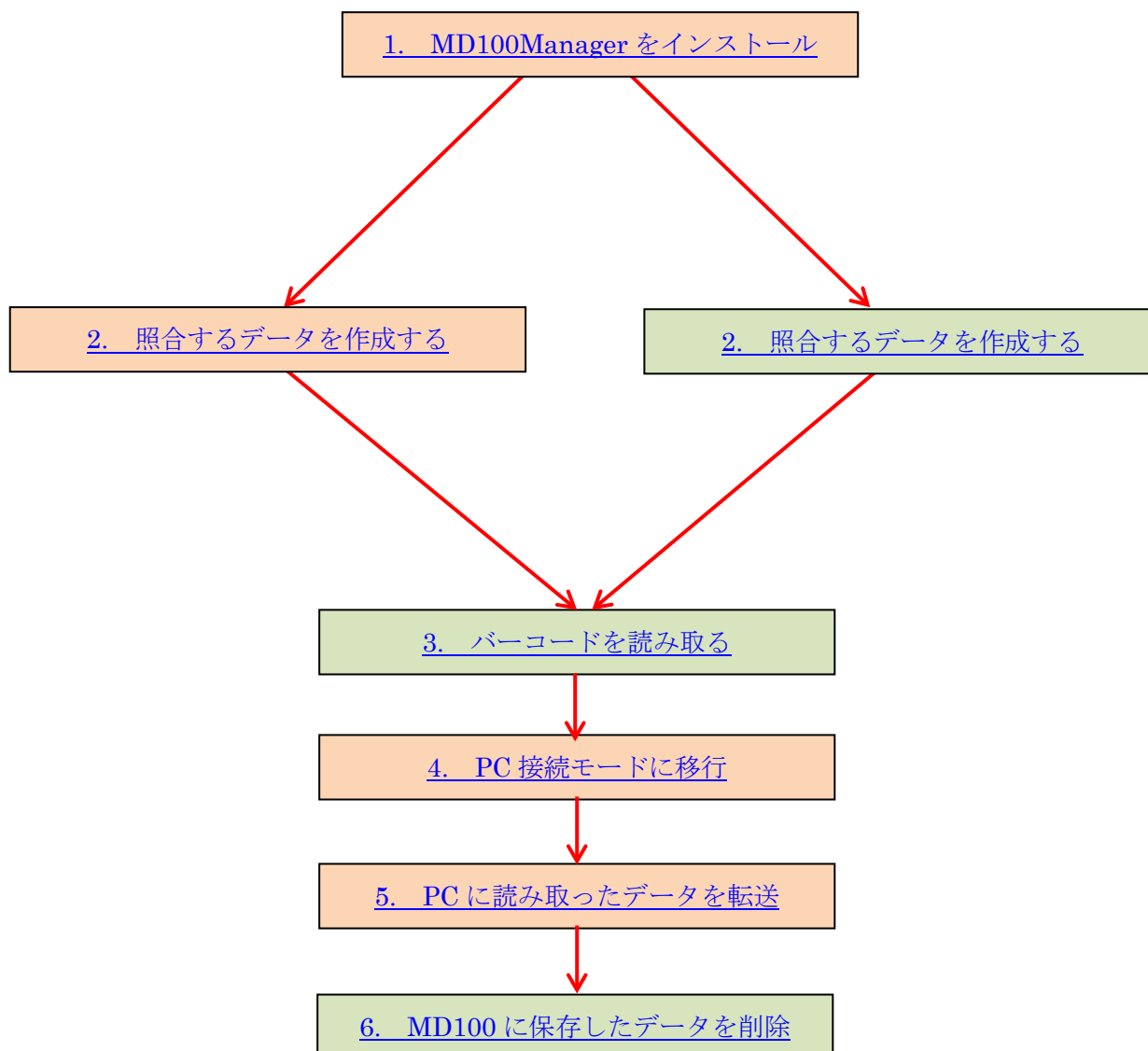
このマニュアルでは「MD100」を DB モードに切り替えてデータの取り込みまでを行うことができます。
詳細設定を行う場合は「MD100 詳細版 DB モードマニュアル」をご確認ください。

また、モード毎の機能については「モードの選び方」をご確認ください。

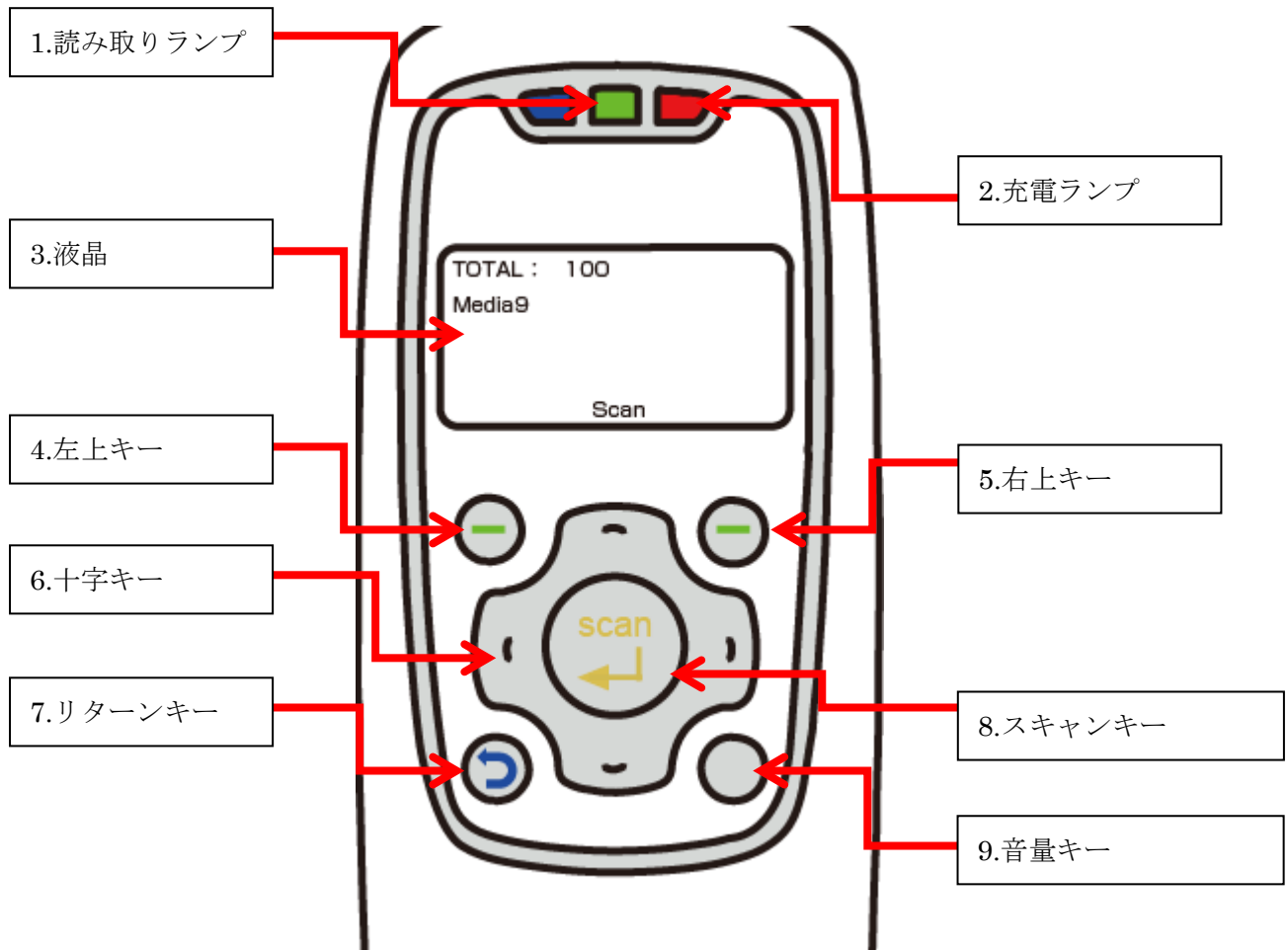
内容

1. MD100 DB 照合モード手順	3
2. MD100 基本操作説明	4
3. MD100Manager をインストールする	5
4. 照合元データベースを作成する (PC 編)	7
4-1.元データを Excel で作成する.....	7
4-2.CSV 形式で保存する	8
4-3.MD100 に転送する・DB 照合モードにする	9
5. 照合データを作成する (本体側)	14
5-1.DB ファイルの作成モードに切り替える	14
5-2.照合元データベースを作成する	15
6. 照合を行う	16
・照合結果一致の場合 1.....	16
・照合結果一致の場合 2.....	16
・照合結果不一致	16
7. 照合結果を PC に取り込む.....	17
7-1.取り込みのための準備.....	17
8. 接続の解除	20
9. CSV データの確認.....	20
10. メモリの削除	21

1. MD100 DB 照合モード手順



2. MD100 基本操作説明



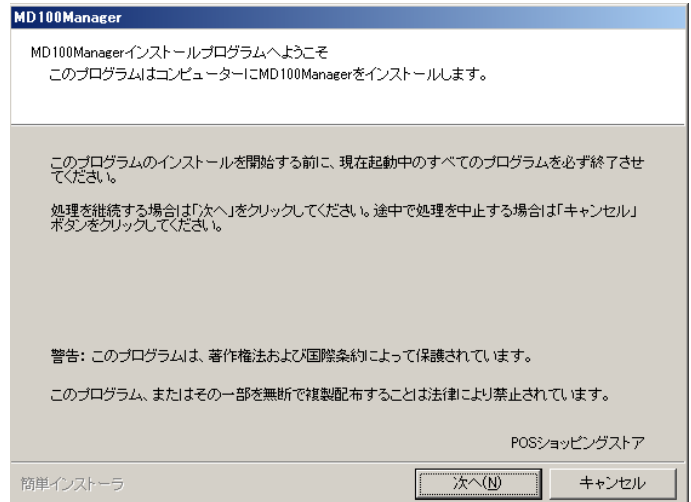
項目	説明
1.読み取りランプ	バーコードを読み取ると緑色のランプが点灯します。
2.充電ランプ	MD100 を充電すると点灯します。
3.液晶	読み取ったコードやメニューが表示されます。
4.左上キー	モードによって使用します。 常時照射モード時、電源以外は操作を受け付けませんがこのキーを押しながら他のキーを組み合わせることで操作を受け付けることが可能です。
5.右上キー	モードによって使用します。
6.十字キー	カーソルの移動等メニュー操作や個数入力時に使用します。
7.リターンキー	一つ前の画面に戻ります。
8.スキャンキー	バーコードを読み取ります。 メニュー等を開いている場合は決定ボタンとして使用します。
9.音量キー	ボタンを押す毎にミュート→小→中→大の順で音量を切り替えます。

3. MD100Manager をインストールする

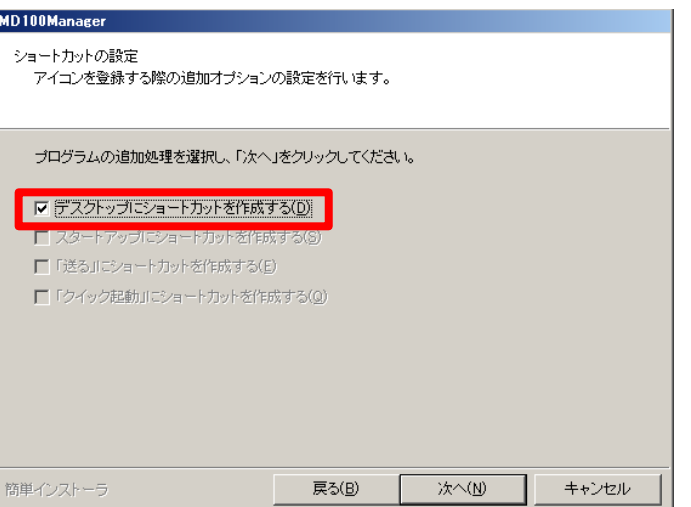
※インストールは CD セット時に自動で行われます。

説明	イメージ
付属の CD をドライブにセットします。	
右のような画面が自動で出てきます。 インストーラーが自動で起動するので インストーラーの指示に従って進めてください。 ※表示されない場合は「setup.bat」を実行します。	
右のような画面が出たら 「.NET」のインストールが開始されます。 インストーラーの指示に従い進めていきます。 ※既にインストールされている場合は省略されま す。	
次に「MS3 Database」のインストールが行われます。 インストーラーの指示に従いインストールを行いま す。	

最後に MD100 のインストーラーが起動します。
「ショートカットの設定」が出てくるまでソフトの指示に従いインストールを進めていきます。



MD100Manager のインストーラーのショートカットの設定で「デスクトップにショートカットを作成する」にチェックを入れるとデスクトップにアイコンが作られて起動が便利になります。



黒のウィンドウが閉じたらインストール完了です。

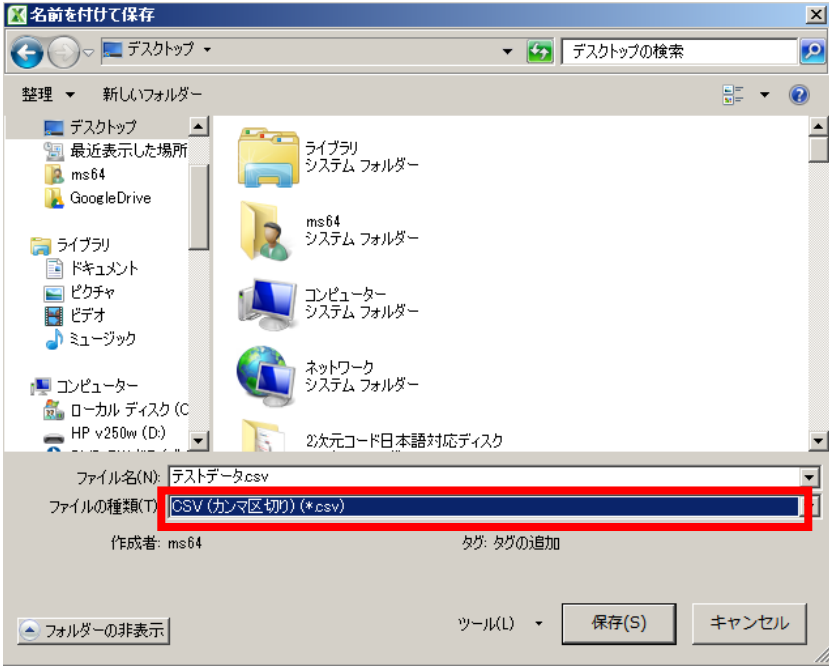
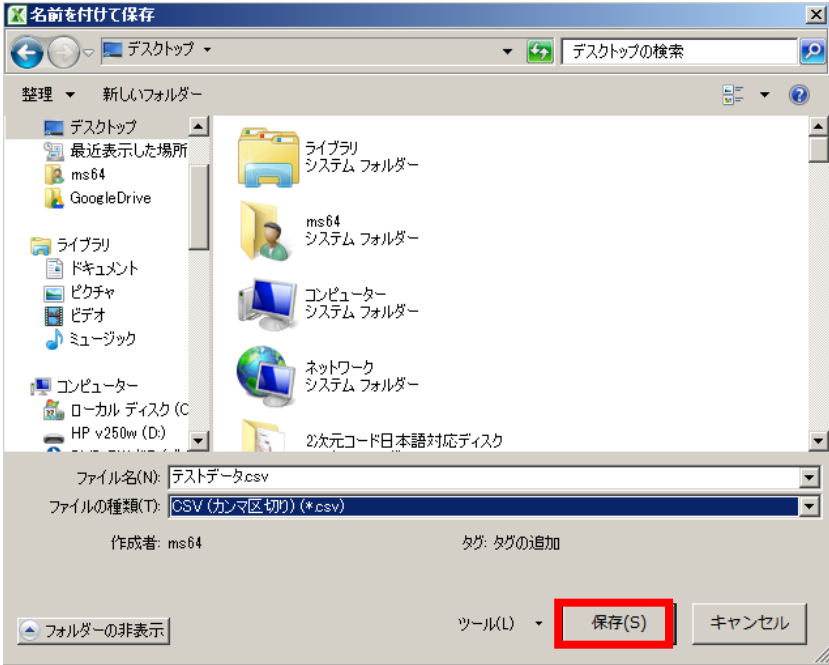

4. 照合元データベースを作成する（PC 編）

4-1.元データを Excel で作成する



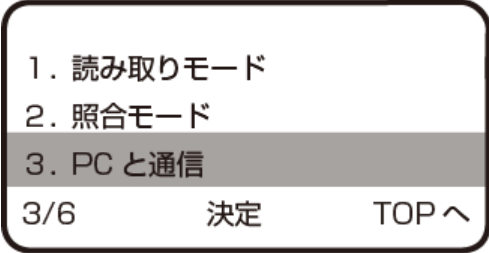
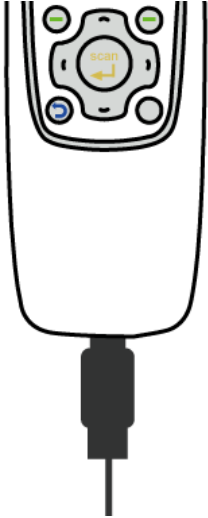
No	説明	イメージ																																
1	照合元になる Excel ファイルを作成します。 A 列を検索キーになるようにしてください。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>バーコード</td> <td>商品名</td> <td>価格</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>10000000</td> <td>MD100</td> <td>60000</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>20002000</td> <td>SD100</td> <td>2680</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>30003000</td> <td>SD500</td> <td>5460</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>40004000</td> <td>SD700</td> <td>5800</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>50005000</td> <td>V-1030</td> <td>12800</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>00000000</td> <td>MD900BT</td> <td>26800</td> </tr> </tbody> </table>		A	B	C	1	バーコード	商品名	価格	2	10000000	MD100	60000	3	20002000	SD100	2680	4	30003000	SD500	5460	5	40004000	SD700	5800	6	50005000	V-1030	12800	7	00000000	MD900BT	26800
	A	B	C																															
1	バーコード	商品名	価格																															
2	10000000	MD100	60000																															
3	20002000	SD100	2680																															
4	30003000	SD500	5460																															
5	40004000	SD700	5800																															
6	50005000	V-1030	12800																															
7	00000000	MD900BT	26800																															
2	B 列以降は照合が一致した際に MD100 に表示されるデータです。 左から 20 文字が表示可能です。 例： 右の画像の場合、「10000000」と言うバーコードを読み取ると「MD100,60000」と表示させることが可能です。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>バーコード</td> <td>商品名</td> <td>価格</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>10000000</td> <td>MD100</td> <td>60000</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>20002000</td> <td>SD100</td> <td>2680</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>30003000</td> <td>SD500</td> <td>5460</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>40004000</td> <td>SD700</td> <td>5800</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>50005000</td> <td>V-1030</td> <td>12800</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>00000000</td> <td>MD900BT</td> <td>26800</td> </tr> </tbody> </table>		A	B	C	1	バーコード	商品名	価格	2	10000000	MD100	60000	3	20002000	SD100	2680	4	30003000	SD500	5460	5	40004000	SD700	5800	6	50005000	V-1030	12800	7	00000000	MD900BT	26800
	A	B	C																															
1	バーコード	商品名	価格																															
2	10000000	MD100	60000																															
3	20002000	SD100	2680																															
4	30003000	SD500	5460																															
5	40004000	SD700	5800																															
6	50005000	V-1030	12800																															
7	00000000	MD900BT	26800																															
3	「0」が一番初めに含まれるコードはうまく表示出来ないなので文字列に変更してください。 ※右クリック→「セルの書式設定」→「表示形式」→「文字列」でも可能です。																																	

※次ページに続きます

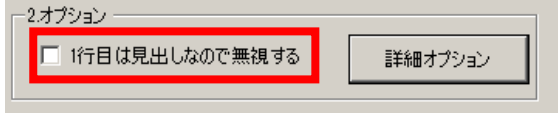



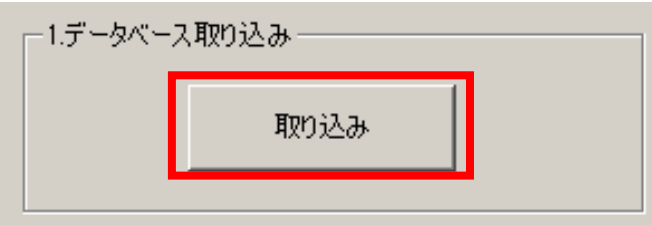
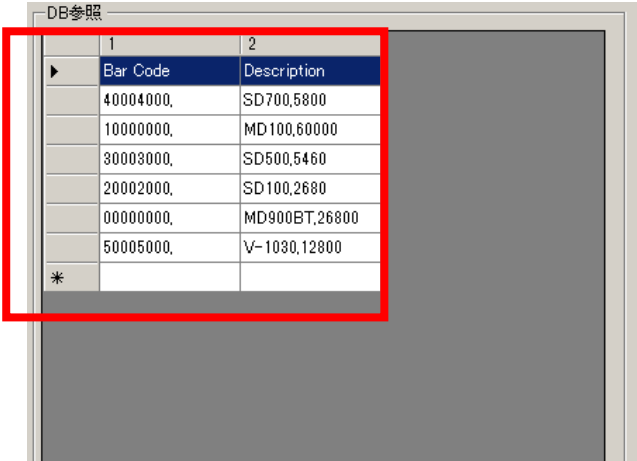
4-2.CSV形式で保存する

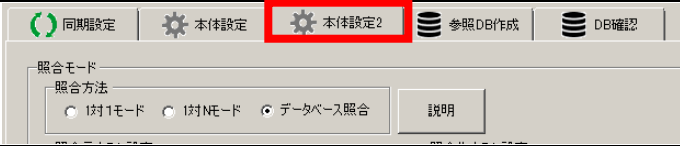
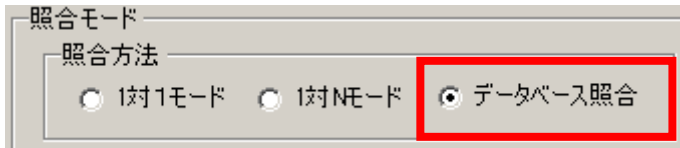
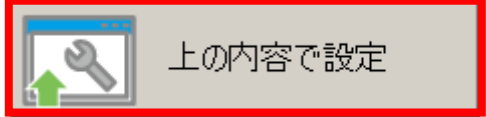

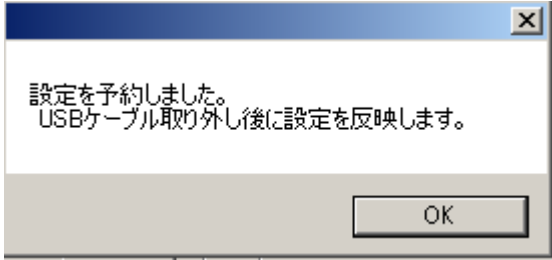
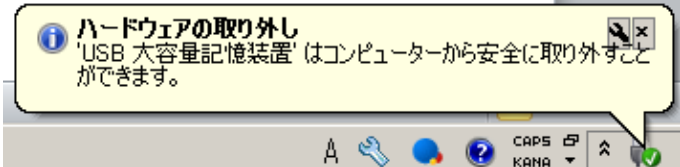
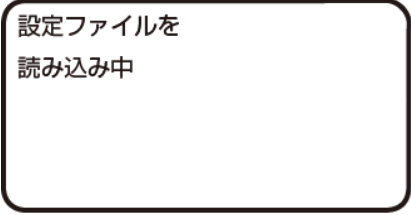

No	説明	イメージ
1	名前をつけて保存を選び ファイルの種類を 「CSV (カンマ区切り)」にしま す。	
2	保存を押して保存します。	
3	出力したデータを 確認して完了です。	

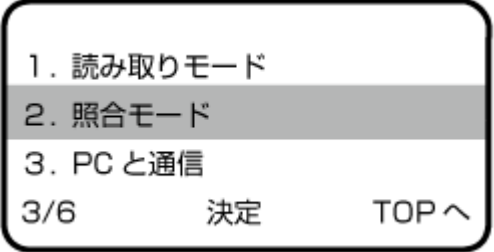
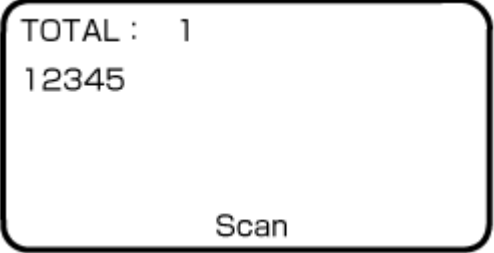
4-3.MD100 に転送する・DB 照合モードにする

No	説明	イメージ
1	<p>デスクトップ、もしくはスタートメニュー等に 出来た「MD100Manager」を起動します。</p>	
2	<p>右のようなソフトが 立ち上がれば起動完了です。</p>	
3	<p>MD100 の設定に入ります。 電源を入れて 3 番目の項目 「PC と通信」を選択します。</p>	
4	<p>この状態で付属のケーブルと PC を接続します。</p>	

5	<p>パソコン側に 右のような画面が出てきたら「閉じる」を押してください。</p>	
6	<p>右の図のように 「読み取りモード」→「照合モード」に切り替えます。</p>	
7	<p>下のタブを「参照 DB の作成」に変更します。</p>	
8	<p>「1.変換データ」を選択します。</p> <p>1.CSV をここにドラッグのところにドラッグアンドドロップする 2.参照よりデータの場所を選択する。</p> <p>を行ってください。</p>	

9	1行目に見出しを入れている場合は右側のチェックボックスをONにします。																						
10	「確認・保存」の部分より データを確認して特に問題がなければ「変換して保存」を押します。	 <table border="1" data-bbox="906 392 1355 611"> <thead> <tr> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10000000</td> <td>MD100</td> <td>60000</td> </tr> <tr> <td>20002000</td> <td>SD100</td> <td>2680</td> </tr> <tr> <td>30003000</td> <td>SD500</td> <td>5460</td> </tr> <tr> <td>40004000</td> <td>SD700</td> <td>5800</td> </tr> <tr> <td>50005000</td> <td>V-1030</td> <td>12800</td> </tr> <tr> <td>00000000</td> <td>MD900BT</td> <td>26800</td> </tr> </tbody> </table>	1	2	3	10000000	MD100	60000	20002000	SD100	2680	30003000	SD500	5460	40004000	SD700	5800	50005000	V-1030	12800	00000000	MD900BT	26800
1	2	3																					
10000000	MD100	60000																					
20002000	SD100	2680																					
30003000	SD500	5460																					
40004000	SD700	5800																					
50005000	V-1030	12800																					
00000000	MD900BT	26800																					
11	しばらく待機して右のような画面に切り替わったら DB 出力は完了です。																						
12	タブを「DB 確認」に合わせてください。																						
13	「取り込み」ボタンを押します。																						
14	<p>右のように DB 参照部分が CSV のデータが確認できたら取り込みが完了しています。</p> <p>※「Bar Code」と「Description」は自動的に付きます。</p>	 <table border="1" data-bbox="799 1621 1422 1912"> <thead> <tr> <th>1</th> <th>2</th> </tr> <tr> <th>Bar Code</th> <th>Description</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>40004000</td> <td>SD700,5800</td> </tr> <tr> <td>10000000</td> <td>MD100,60000</td> </tr> <tr> <td>30003000</td> <td>SD500,5460</td> </tr> <tr> <td>20002000</td> <td>SD100,2680</td> </tr> <tr> <td>00000000</td> <td>MD900BT,26800</td> </tr> <tr> <td>50005000</td> <td>V-1030,12800</td> </tr> </tbody> </table>	1	2	Bar Code	Description	40004000	SD700,5800	10000000	MD100,60000	30003000	SD500,5460	20002000	SD100,2680	00000000	MD900BT,26800	50005000	V-1030,12800					
1	2																						
Bar Code	Description																						
40004000	SD700,5800																						
10000000	MD100,60000																						
30003000	SD500,5460																						
20002000	SD100,2680																						
00000000	MD900BT,26800																						
50005000	V-1030,12800																						

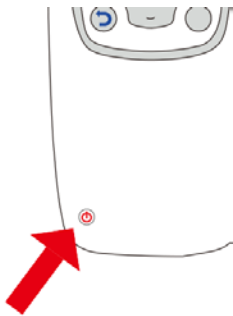

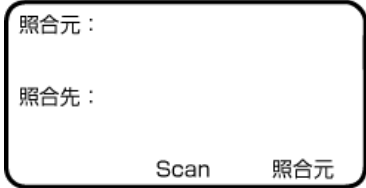
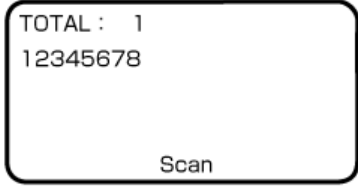
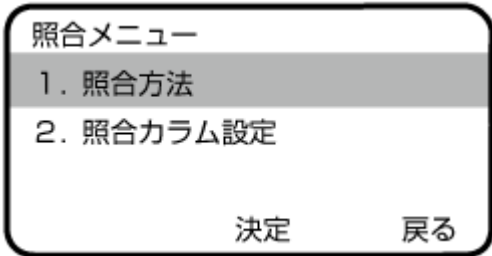
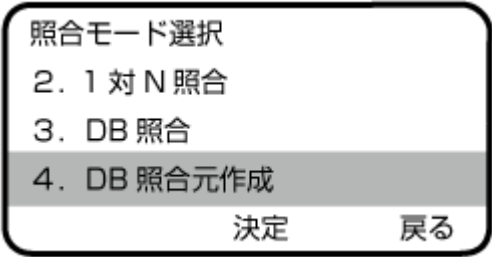
15	次にタブを「本体設定 2」に切り替えます。	
16	データベース照合に切り替えます。	
17	「上の内容で設定」を押します。	
18	「接続解除」を押して安全な取り外しを行います。	
19	この画面が出るまで待機します。画面表示後に「OK」を押します。	
20	右のように「安全な取り外し」の表記が出たらログアウトしても大丈夫です。	
21	MD100 側の画面がこのように切り替わります。 ※電源を切ったり USB を再接続したりしないでください。	
22	右の画面に切り替わったら照合に移ります。	


23	<p>戻るキーを押して1つ戻ります。 「照合モード」を選択します。</p>	
24	<p>右のような画面に切り替わったら 照合モードに切り替わっています。</p>	

照合は [P16](#) を参照してください。

5. 照合データを作成する（本体側）

5-1.DB ファイルの作成モードに切り替える

No	説明	イメージ
1.	MD100 の電源を入れます。	
2.	2 番目の「照合モード」を選択します。 ※この画面ではない画面などの場合は、一度電源を切り、もう一度電源を入れなおしてください。	
3.	①もしくは②にモードが切り替わります。 ここで右矢印キーを押してください。	<p>①</p>  <p>②</p> 
4.	右のメニューに切り替わったら「1 照合方法」を選択します。	
5.	上下キーを押してカーソルを移動し「4 DB 照合元作成」を選択します。	

6.	これでデータベースを登録するモードに切り替わりました。	
----	-----------------------------	--

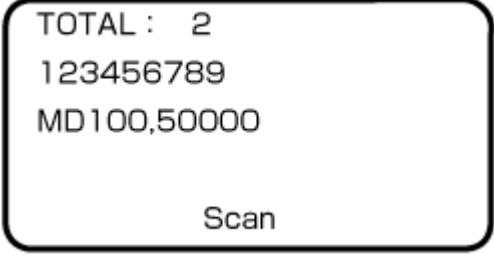
5-2.照合元データベースを作成する

No	説明	イメージ
1.	P14 の「DB ファイルの作成モードに切り替える」を行った後、照合元として登録したいバーコードを読み取ります。	
2.	右のような画面になると登録されています。	
	二度同じコードを読み取ると右のような表示になります。	
3.	登録したデータをすべて削除する場合は「右上キー」を押します。メニューが出てくるので「削除する」を選択してください。	
	作成が完了したら「左上キー」を押します。右の図のような画面に切り替わり照合が開始します。	

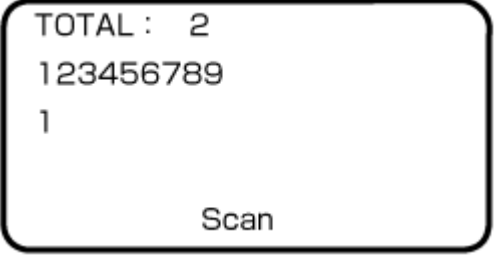
6. 照合を行う

No	説明	イメージ
1.	P9 、または P14 で「DB 照合モード」への切り替えが完了されていることを確認して下さい。	
2.	バーコードを読み取ります。	

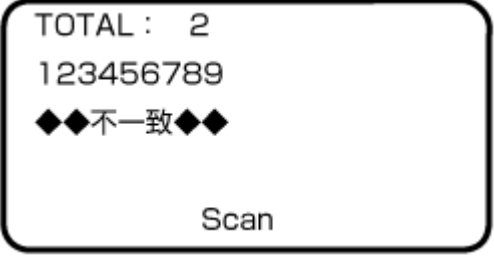
・照合結果一致の場合 1

一致するとパソコンでデータを登録していると右画面のように詳細データも表示されます。	
---	---

・照合結果一致の場合 2


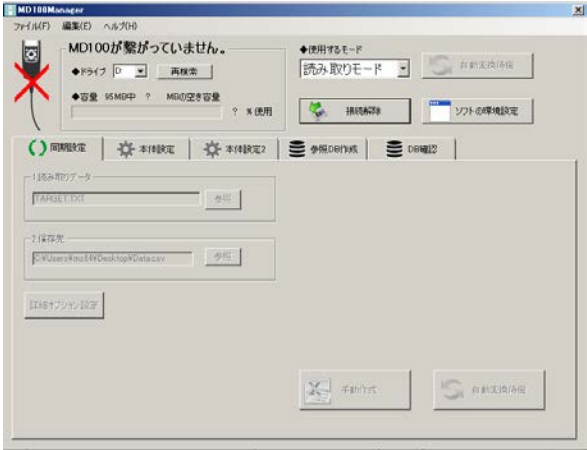
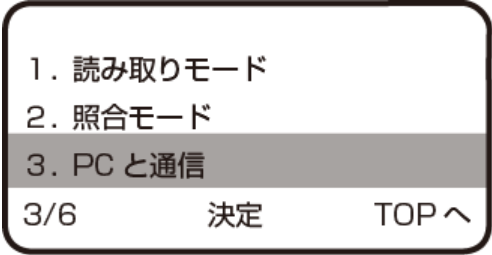
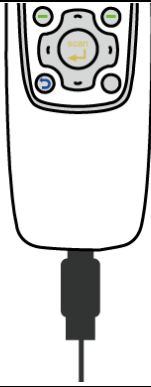

照合結果一致 2 本体から登録をしていたり 検索キーだけを登録していると「1」だけの表示になります。	
--	--

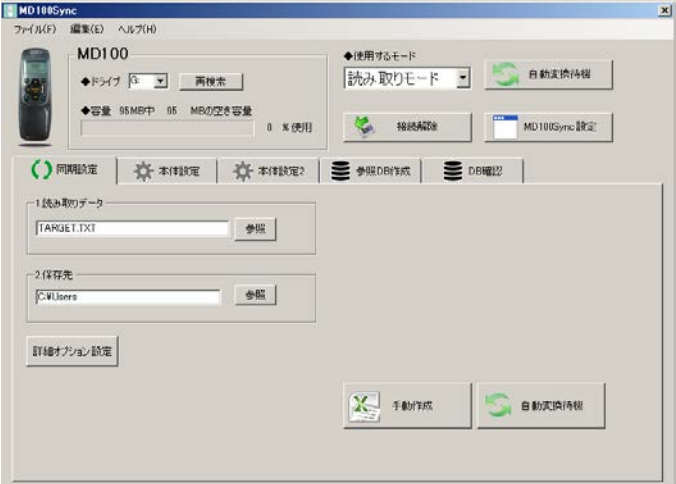
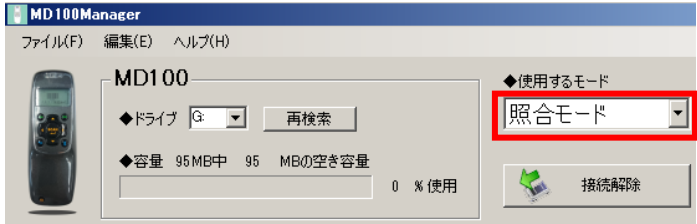
・照合結果不一致

照合結果不一致 データが一致しないと右のようになります。	
-------------------------------------	--

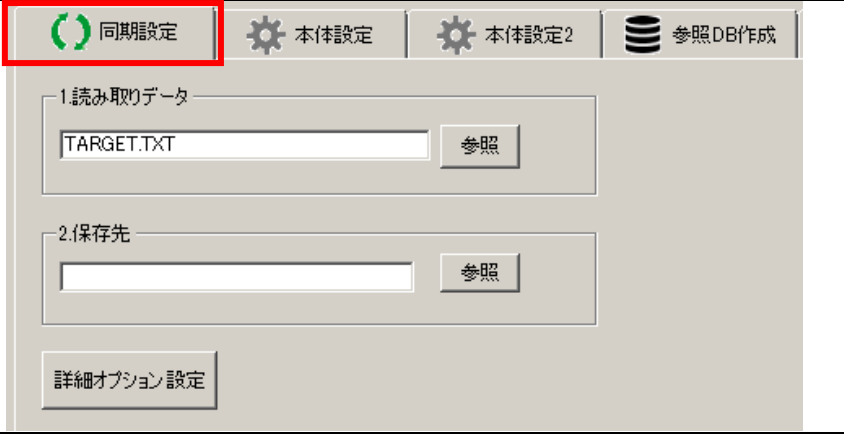
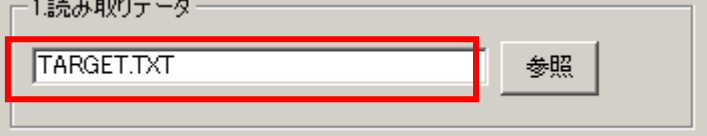
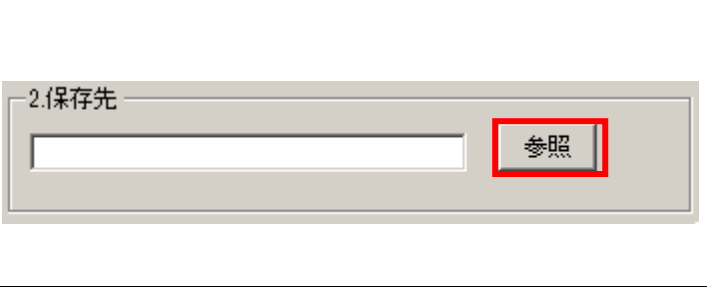

7. 照合結果を PC に取り込む

7-1. 取り込みのための準備


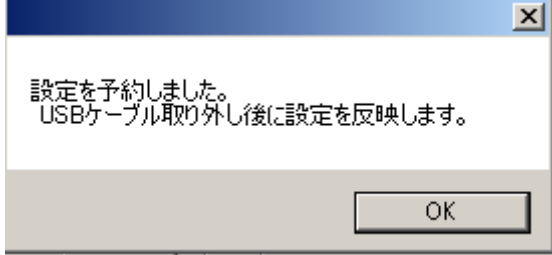
1	PC 側で「MD100Manager」を起動します。	
2	右のようなソフトが立ち上がれば起動完了です。	
3	MD100 側の電源を入れて 3 番目の項目「PC と通信」を選択します。	
4	この状態で付属のケーブルと PC を接続します。	
5	自動再生の表示が出てきたら「×」又は「キャンセル」してください。	

<p>PC 側に戻り</p> <p>6 左のように MD100 が認識されたら接続が完了しています。</p>	
<p>7 ソフトの使用するモードが「照合モード」に切り替わっていることを必ず確認して下さい。</p>	

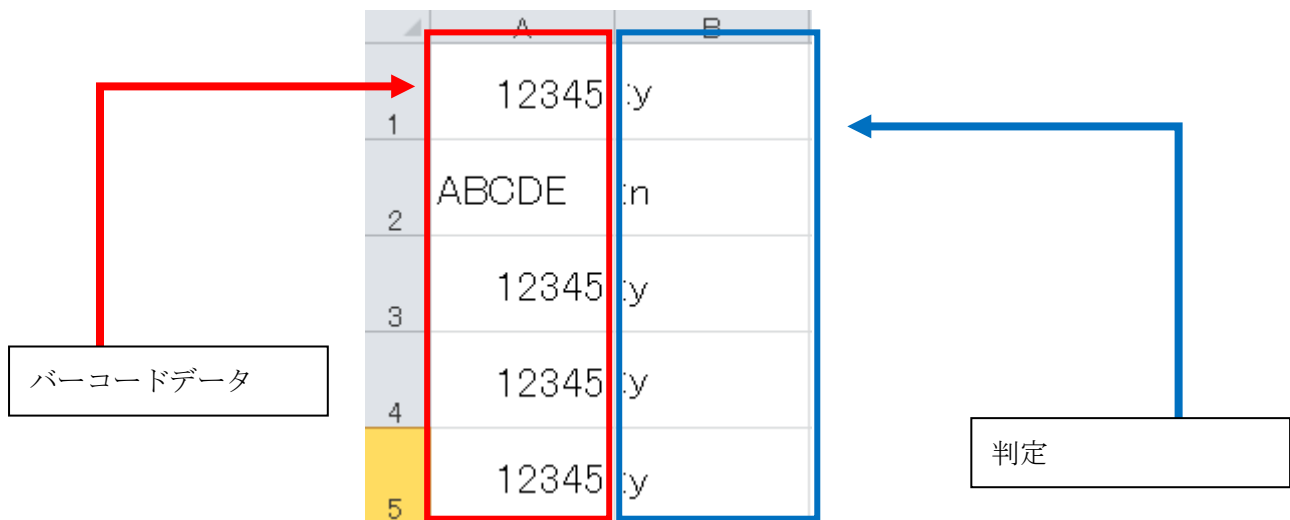
7-2.取り込みを開始する

<p>ソフトを起動した状態で 「同期設定」をクリックします。 ※右の画像の赤の四角</p>	
<p>読み取りデータが「TARGET.TXT」 になっていることを確認して下さい。</p>	
<p>2番の「保存先」の 参照をクリックします。 保存先の指定画面が出るので保存し たい場所とファイル名を指定します。</p>	
<p>手動作成ボタンを押すと保存されま す。</p>	
<p>※ファイル名は 「ファイル名」+「日付」+「ナンバ ー」になります。</p>	

8. 接続の解除

<p>「接続解除」を押して安全な取り外しを行います。</p>	
<p>この画面が出るまで待機します。画面表示後に「OK」を押します。</p>	

9. CSV データの確認



	A	B
1	12345	y
2	ABCDE	n
3	12345	y
4	12345	y
5	12345	y

項目		説明
バーコードデータ		読み取ったバーコードのデータです。
判定	:y	「一致した」データです。
	:n	「不一致」データです。

10. メモリの削除

PC 取り込み後に引き続き読み取る場合は設定不要ですが

65,530 件程読み取った場合や保存データを破棄して新規読み取りを行う場合はメモリを初期化することをおすすめします。

<p>TOP 画面に戻ります。 ※MD100 の電源を一度 OFF にして再度 ON にして右のような画面にするとすぐにこの画面になります。</p>	
<p>上か下にカーソルを移動して 4 番目の「ファイル操作」を選択してください。</p>	
<p>2 番目の「ファイルリスト」を選択します。</p>	
<p>TARGET.TXT まで移動を行います。</p>	
<p>右上キーを押して削除画面を呼び出します。</p>	
<p>左上キーを選び削除します。</p>	
<p>「TARGET.TXT」が削除されていれば削除完了です。 ※この時に「READDATA.IDX」「DELETE.IDX」も削除されます。</p>	